

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970800086		
法人名	社会福祉法人 合歓の木の会		
事業所名	グループホーム 百日紅の家		
所在地	土佐清水市グリーンハイツ20-21		
自己評価作成日	平成30年1月5日	評価結果 市町村受理日	平成30年4月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、利用者がゆったりと、その人らしい生活を送ってもらえるように見守っている。職員は、利用者の自尊心を大切にして、家族としてのかかわりを持ちながら、日々の支援に取り組んでいる。

秋祭りを通じて地域住民やボランティアと交流したり、幼稚園児と触れ合う機会も設けている。利用者の希望や意向を大切にしながら、自然環境に恵まれた庭で外気浴をしたり、出身地のドライブに行ったり地域主催の月一回の喫茶モーニングに出向いたり、地域との交流に取り組んでいる。

事業所中心の炊き出し合同訓練を行い、地域住民の参加も呼び掛けている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kihontrue&JiyosyoCd=3970800086-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成30年2月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は高台の新興住宅地にあり、新しい住民が増えてくる中、事業所が地域での中心的な役割を担うようになってきている。毎年の災害時の炊き出しの合同訓練や、秋祭り等は地域の催事として位置付けられ、利用者は地域住民との親交を深めている。

食事は利用者の食べたいものに応じて、日々メニューを決める体制も継続されており、職員と利用者が一緒に作り、一緒に楽しみ、一緒に片付けることができている。

利用者の自立を重視し、自尊心、尊厳を守る姿勢を大切にしている事業所である。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	百日紅は家である、入居者は身内であり、父母であるとの理念を休憩室に貼り、職員はいつも確認しながら、実践につなげている。ケア会議のときなど、折に触れて理念の確認をしている。	「百日紅は家であり、利用者と職員は家族のように互いに励ましあい助け合い、地域住民と交流しながら生活をする」の理念のもと、職員は、利用者への思いやりと尊厳を大切にしたいケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年恒例となっている百日紅の家の秋祭りは、事業所を中心に、地域のボランティアと一緒に売店、バザー、踊りなどを賑やかにを行い、地域の祭りとなっている。事業所中心の炊き出し合同訓練も、毎年行っている。	事業所は高台の新興住宅地にあり、新しい住民が増えてくる中、事業所が日常的に地域行事の中心になることが多くなっている。災害訓練や炊き出し訓練、秋祭りなどで、区長や多くの地域住民の参加がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の研修に参加し、認知症ケアの勉強会をしている。高齢者となっても、その人らしい生活を送れることが大切であることを運営推進会議でも説明し、支援方法について話し合っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には民生委員、区長、家族、市役所、市社会福祉協議会の参加を求め、話し合いを行い、意見を得ている。	参加者それぞれの立場から意見を聞いて、話し合いは行われているが、具体的な課題を話し合うまでには至っていない。議事録も参加していない家族に送付されていない。	目標達成計画の内容や、事業所の取り組み課題を説明し、課題解決のためにそれぞれの立場からの意見を得て、運営に活かすことと、家族への議事録送付を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での話し合いはもちろんのこと、事業所で問題になり、解決に悩んだときは電話や出向いで相談している。	市担当職員とは、事業所運営について日ごろから相談し、助言を得る関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は研修に参加し、その内容を事業所内勉強会で共有している。利用者とのかわりの中で、身体拘束につながる危険について、職員間で絶えず話し合っており対応している。利用者に不穏な状態がみられるときは、散歩に出たり、家に連れて帰ったりして、本人の気持ちを変えている。	職員は外部の研修会に参加し、事業所内でも研修が行われ、身体拘束をしないケアが徹底されている。転倒により骨折した利用者に対しては、家族の同意を得て、センサーマットを使用し、離床状況に注意している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の研修は常に行っている。ホーム内でも勉強会を設け、職員は虐待に対する理解を深めている。管理者は、毎日のミーティングで職員の思いを受け止めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	管理者と職員は研修に参加し、ケア会議などで勉強会を行っている。利用者に活用できるように協力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や内容の変更の際には、時間をかけて説明し、理解を得ている。疑問がある家族には、個別に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中で家族の意見を聞くようにしている。意見箱の設置、第三者の苦情窓口を設置し、出された意見を前向きに運営に活かせるようにしている。	家族会がなく、家族に家族会の働きかけを行い、家族が集まった際に話し合う機会を持ったが、会の設立には至らず、意見を得ることもなかった。面会時に一度苦情があり、職員で話し合っ改善につなげた。	家族会にこだわる必要はないが、もっと家族からの意見、要望を引き出す努力や、場面作りの工夫が必要であり、運営推進会議等で家族に相談する形で意見や要望を得て運営に反映させ、その経過と結果も伝えることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長、副施設長、統括管理者が頻繁に事業所に顔を出し、職員と直接話をする機会を設け、職員の意見を活かせるようにしている。	介護度が低い利用者が増えたことで、職員から利用者ができることはしてもらって自立した生活を考えるという意見があり、職員が見守る中で、安全第一に、利用者を手伝いをしてもらうようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員にねぎらいの言葉、褒め言葉をかけている。職員、管理者が納得いくまで意見を聞いて、職員が満足して働ける環境を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりを研修に参加させ、職員レベルに応じた資質の向上に努めている。市内だけではなく、市外の研修にも参加する機会を多く作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会に参加し、3ヶ月に1回の定例会を行っている。管理者は医療連携の会合、母体法人の百日紅の推進会議に参加するほか、管理者会を定期的に行って、質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時、まず本人と面談し、本人が納得するまで話し合いをしている。本人の不安、要望に耳を傾け、本人が事業所のサービスを受けたいと思えるようになることを大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困りごとに耳を傾け、入所により家族の安心につながるような関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時、本人、家族、かかりつけ医からの入所前の生活状況、思いを聞くことで、その思いを受け止めている。本人、家族の思いをケアプランに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は個人が望んでいる過ごし方を見つけて、支援をしている。買い物好きな利用者は買い物に出かけたり、喫茶店に行ったり、花の好きな利用者は四季の花を見に出かけている。食器洗い、掃除など、生活の場で利用者にもできることを協力してもらって暮らしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	おもてなしの心を大切にして、面会時にはお茶を用意して、職員とのかかわりを大切にしている。家族と職員が、共に利用者を支え合う関係作りを築いている。		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	利用者は、友人宅を訪問したり、入所前から利用していた美容院に行ったり、住み慣れた地域の喫茶店に行ったりして、馴染みの人たちとの交流を継続している。四季折々には、住み慣れた地域へのドライブにも行っている。	2名の利用者は、馴染みの美容院に職員が送迎している。地元友人宅を訪問したり、家族が経営している店で食事をするなど、馴染みの関係を継続する支援ができています。	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	気の合う利用者同士座るなど、配席の工夫をしている。		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	やむ得ず退所した利用者を訪問したり、家族に電話で安否確認や本人の暮らし振りを聞いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	利用者の尊厳を大切に、その人らしい生活ができるように本人の希望、意向を大切にしている。	日ごろ接する中で、利用者の思いを聞き、把握するようにしている。本人からの聞き取りが困難な場合には、家族から情報を得ている。記録にはセンター方式の導入を目指しているが、全員分には行き渡っておらず、数名分に留まっている。	目標としているセンター方式の導入について積極的に取組み、利用者全員の分が整備され、職員間での十分な情報共有とケアへの反映がされることを期待する。
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	本人、家族、今までのサービス利用機関からの聞き取りを密に行っている。職員はおもてなしの心を大切にし、面会時の家族との信頼関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で利用者のできること、生き甲斐を見つけ出すことで、その人らしい過ごし方を探している。職員は毎日の生活の中で、利用者の変化に常に気にかけて、情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のケアプランチェックと、月に1回のケア会で話し合っている。家族や訪問看護師からの意見をプランに反映させるようにしている。	ケアプランの実施状況は、日々職員が確認し、毎月モニタリングもされている。入院や本人の状態変化でケアプランは見直されており、変化がない場合でも3ヶ月毎に見直しが行われている。プラン策定においては、家族の意見や希望も反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の状況を記録し、別紙には日々の職員の気づきについて記載して、ケアプランの見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々個人の状況を重んじて、その人に合った支援をしている。天気の良い日には利用者の地域にドライブに出向いたり、初詣に行き利用者の自宅で、皆がお茶をもちょうになったりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、市社会福祉協議会職員、区長は運営推進会議に参加後、利用者と一緒にレクリエーションを一緒にして過ごす。幼稚園児が来訪し、交流がある。利用者職員で回覧板を近所に持って行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望でかかりつけ医を決めている。認知症専門医やその他の受診科目の受診時には、家族の協力を得ている。かかりつけ医とはその都度情報共有を行い、利用者を皆で支えられるようにしている。	協力医への受診は、職員同行で行われている。受診結果に異常があれば、家族にも報告している。専門医受診は家族同行での受診だが、必要に応じて職員も同行している。職員間は、申し送り等で情報共有をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護があり、利用者の状況を把握して、相談に乗ってもらっている。電話での助言も得ている。精神科の訪問看護あり、相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供を行い、入院中は職員、管理者がたびたび見舞いに行っている。主治医との連絡も取り、病院、本人、家族、事業所間の情報共有に努め、できるだけ早く退院できるように心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を入所時に説明し、重度化傾向にあれば医師、家族、管理者と話し合い、再度方針を確認して、支援している。協力医とは、看取りを前提とした協力体制が整っている。	看取りは1名経験しているが、入所時の意向の確認は利用者、家族から聞きにくいと、まだ行えていない。職員の看取りの研修も進んでおらず、現在は積極的に看取りが行える状況にない。	入所時や本人の思いが聞ける時期に家族と共に話し合うことは、事業所の体制を整えていく意味においても重要であることから、事業所でできることを話し合うことと、職員の研修実施等による実施体制の強化を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員はそろって応急訓練の勉強をしている。利用者の身体状態の急変や自己発生時にも適切な行動がとれるように、常に利用者の状況についての情報を伝達している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力のもと、消防訓練、自主訓練を折に触れて行っている。地域との災害訓練や炊き出し訓練も行っている。地域住民の協力体制も出きている。薪準備、非常食の準備や飲料水の調達、使わなくなった布団、洋服も準備している。	消防署協力との火災訓練では、避難経路の指摘を受け、見直し訓練を行った。年3回の地域住民との災害訓練では、区長をはじめ地域住民と母体法人職員が炊き出しを行っている。災害時には、近隣に住む職員も2名おり、地域との協力体制ができている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの尊厳を大切にして、トイレ誘導のときは声掛けに留意したり、個人的なことは居室で話しをするようにしている。	利用者尊厳と自立を重視しており、排泄の失敗にも、さり気なく対応している。利用者の人格を尊重した声かけにも気を配っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の表情、言葉から本人の思いを受け止めるよう心がけている。支援に本人が納得しているかを見極め、利用者との毎日の生活の中で本人の思いを受け止め、自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの個性を見極め、どのように過ごすことが利用者にとって心地よい過ごし方かを考えている。眠い時に部屋で寝る、ホールで寝る等、利用者の自由にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院を定期的に予約して通う利用者があり、化粧をしたり、洋服を職員と選んだりすることで、その人らしいお洒落を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの食事ができるように、食べたいものを聞いている。利用者にも、盛り付けや味見、食材の準備をもらっている。	季節を感じる食材を使い、食事が楽しめ、利用者に味見をもらうことで話題が弾む食卓であった。片付けも当番制になっており、役割分担により利用者の張り合いや自信、嫌いなものでも食べられるようになる楽しみや、喜びにつながっている姿が窺えた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとり人の状態に合わせて、刻みとろみ食にしたり、水分量の確保を定期的に確認している。水分補給、補助食品や好みのものを状況に応じて摂ってもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼、夕に入れ歯の利用者は職員が洗い、口腔内はうがい、歯磨きは本人がしている。夜は洗浄液に入れ入れ歯を付けて、衛生管理をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事前にはトイレ誘導でトイレに行き、排泄をもらっている。本人の希望に応じてトイレ介助を行い、歩行困難な利用者は部屋にポータブルトイレを設置し、希望時に座ってもらっている。	布パンツの利用者が4名、紙パンツの利用者が5名で、4名は排泄自立しており、他は起床時や食事の前、本人の訴え時にトイレ誘導している。失敗しても自分で処理をしようとする場合、自立を重視し、汚れた下着を洗っている際にも見守って、本人が傷つかない配慮をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に水分補給し、牛乳を飲んでもらって、毎日の排便の確認を行っている。出にくい利用者には散歩や体操を呼び掛け、食物繊維の多い食事を摂っている。毎朝、夕にコップ一杯の水を飲む便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせて入浴している。親せき同士の利用者が時々二人で入ったり、その時の状況で入浴を楽しんでもらっている。	1日3名の入浴で、希望すれば毎日の入浴もできるが、2日毎が2名、3日毎が7名となっている。見守りは必要であるが自立した利用者が多く、脱衣から終了までゆったりと、気持ちよく楽しんでもらうために、回数は少ないが満足した入浴となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	習慣を大切に、休息をしてもらっている。疲れたり、しんどそうなときは眠れるように支援している。昼食後は部屋に戻りベッドになり仮眠したり、休息をもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬を防ぐために、職員は注意して何でもの確認をしている。薬が変わったときは、職員間で情報共有する。副作用についても、職員同士で絶えず確認合って、取り組んでいる。訪問看護やかかりつけ医にも処方のコピーを渡して、情報共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を活かし、生け花をしてもらったり、買い物に行ったり、般若心経を書き写したりと、利用者一人ひとりの楽しみを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気や地域に触れることを大切に考え、気候の良い日には、毎日庭に出て外気浴をしている。本人の希望で買い物や外食に出かけたり、演芸の鑑賞、小学校の運動会、相撲大会、幼稚園の運動会、学芸会、四季の花見やミカン狩り、市内のグループホームでの交流会などに参加している。	介助すれば全員が歩行できる状態のため、年に5、6回は全員で外出している。椿の花の前で、職員と共に全員で撮った写真も飾られていた。希望に沿って、美容院や買い物など、2、3名ずつの外出も月に2回は行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる利用者は、家族と相談して所持している。職員と一緒に買い物に行き、自分で支払をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持って家族や友達と連絡をしたり、手紙や年賀状、暑中見舞いを家族に出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには天窓を作り、明るい日差しが入るようにしている。壁面には利用者の手芸作品や行事の写真を掲示して、和みのある空間を作り、四季折々の工夫をしている。玄関先には花を生け、来訪者をお迎えている。各居室には、それぞれの好みのものを飾り、心地よさを大切にしている。	玄関には、利用者の手で庭に咲いている季節の花が活けられており、壁には利用者が作成したキルト作品等が飾られている。食事時には、BGMが静かに流れ、おしゃべりしても邪魔にならない、心地良さを配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでのテーブルは、利用者同士で話ができるように席を用意している。玄関先にはソファを置き、外を眺めながらくつろぐ姿がみられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人の好みに合った部屋づくりをしている。本人が安心して過ごせる環境づくりをしている。	墨を摺りながら般若心経をしたためている利用者や、配偶者の仏壇を前に拝む利用者、荷物を全てクローゼットに片付けている利用者と、それぞれが、自分にとって安心して過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒防止の手すりや立ち上がり棒を設置し、利用者が安全に生活ができるように工夫している。個別に歩行器、車いすの利用をしている。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない